



箱根駅伝から学ぶ

①意識改革

右の新聞記事は今年の箱根駅伝で優勝した日体大についての記事です。この記事を読み終わったとき、先生の胸にはこみ上げてくるものがありました。後輩が主将に指名されたときの上級生の気持ちは何とも言えない悔しさでいっぱいだったでしょう。中には「辞めてやろう!」と思った部員もいたでしょう。しかし全員が辞めずに、意識を変えて取り組んだからこそ、今回の優勝があったと思います。練習前のグランド掃除、消灯時間の厳守、バランスのとれた食生活など、『当たり前前のことを当たり前に』やってきたからこそその結果だと思えます。「期待より信頼できる選手が増えた。」レベルや競技は違いますが、同じ監督としてはとても納得のいく、重みのある言葉に聞こえました。



②様々な思いのこもった一礼

駅伝の中で、たすきを渡す瞬間はその人の人間性が見える一つの場面です。今回、たすきを渡した後、控え場所に戻る前に深々と頭を下げコースに向かって一礼をする選手の光景を目にしました。きっといろいろな意味での「**感謝の気持ち**」が込められた一礼だったことでしょう。きっと今回の箱根駅伝に向けて全力で頑張ってきたからこそ、心からの一礼ができたのでしょう。

☆みんなは何を感じましたか？

「期待より信頼できる選手が増えた」。今年の日体大を別府監督はこう話す。住路はいなかった4年生が3人いる複路の布陣は、その言葉を現実に体現した。

山下りの6区で後続の東洋大や明大などが差を詰めてきた。少し嫌な空気が漂う。しかし、4年の7区高田は頓着しなかった。「差が縮まったとか開いたとかの情報は全然なかった」と高田。

「期待より信頼できる選手が増えた。」レベルや競技は違いますが、同じ監督としてはとても納得のいく、重みのある言葉に聞こえました。

「期待より信頼できる選手が増えた。」レベルや競技は違いますが、同じ監督としてはとても納得のいく、重みのある言葉に聞こえました。

惨敗から1年 4年生も成長

(酒井川亮介)